して斯かる風を作つたのではない、偶然ではあるが、此日本畫的な氏の畫風は、油繪嫌いな人達にも決して惡しき感じを與へなかつた、先生自身が世に敵者を持たれなかつた如くに、其畫風も世人から愛好された、自已の作風が其時代の趣味と一致するといふことは稀なることであつて、此點に於て先生は幸福の人と云はねばならぬ。

如斯其作風は、過去及現在に於て主要なる位置を占められたが、併し將來は如何なものであらうか、かゝる風も有力なる要素として存在すべきは勿論ではあるが、深きを求め、强きを求め、熱きを求め、徹透せねば止まぬ近代的思想を有する人々に對して滿足を與ふることが出來るであらうか、私は疑なきを得ぬ、時代の要求は如何なる點に向ふべきか、私は今こゝに豫言することは出來ぬが、若し繪を學ぶ人々が、先生の水彩畫に醉ふて、自已の本領を忘れ、其精神を學ばずして形式を眞似るやうの事がありては害あつて益なしと思ふにより爰に一言を加へたのである。

至誠は傑作の淵源にして、眞心なきもの、自ら欺くものより名技巧藝の生ずること決してなし。

サー、フレデリツク、レートン

チーチヤー、

小供の好む色

（尋常二、三、四學年につき）

	二年（十一人）	三年（十二人）	四年（二十四人）	計（四十七人）
紫	二、	四、	一五、	二一、
綠	三、	一、	三、	七、
肉色	六、	一、	四、	一一、
赤	〇	一、	一、	二、
小豆色（アズキイロ）	一、	二、	〇	三、
藍	〇	一、	〇	一、
白	〇	一、	一、	二、
てつ色	〇	一、	〇	一、

小供の好む畫材（全）

	二年（十三人）	三年（十四人）	四年（二十三人）	計（五十人）
風景	五、	七、	一四、	二六、
花島	六、	三、	四、	一三、
動物	一、	一、	一、	三、
戰爭	一、	三、	四、	八、

器具に屬するものは一點もなかつた。

年を追ふて風景畫の多きは注意を要する件である。

＊　＊　＊　＊　＊